

やけはた
焼畑(2)遺跡

— 津軽海峡を望む高台の縄文遺跡 —

所在地：下北郡大間町大字奥戸字焼畑

調査機関：青森県埋蔵文化財調査センター

調査期間：令和2年8月4日～9月30日

調査原因：県営下北北部地区中山間地域総合整備事業

遺跡の概要

焼畑(2)遺跡は大間崎の南約6km、奥戸川左岸の標高30m程の段丘上に立地しています。遺跡に至る道路からは津軽海峡を望むことができます。調査区は段丘北縁の平場に位置しており、調査区の北と東は比高25m程の急峻な崖となっています。調査の結果、縄文時代後期前葉の土器・石器が出土し、同時代と思われる焼土遺構が確認されました。

遺構の概要

焼土遺構が1基見つかりました。小規模で被熱も弱いものでした。

遺物の概要

遺物は、縄文時代後期前葉の土器や、同時代のものと思われる石器が合わせて段ボール箱で6箱出土しました。調査区の北西側には遺物が集中して出土した箇所が認められましたが、それ以外の遺物はまばらに出土したものです。出土土器の中には、文様が北海道の土器に似通ったものも見られました。

遺跡の特徴

奥戸川近くの津軽海峡を望む高台には、約4,000年前の人々の営みがあったことが明らかになりました。土器の文様の特徴から、その人たちは北海道と何らかの関係があった可能性が想像されます。なお、遺跡の主体部は、今回の調査区の西側にあるものと推定されます。(平山 明寿)



調査区北西側で確認された遺物集中箇所



調査状況(南から)